

LONDON REPORT
AUG 2010

LONDON REPORT

AUG 2010

CONTENTS

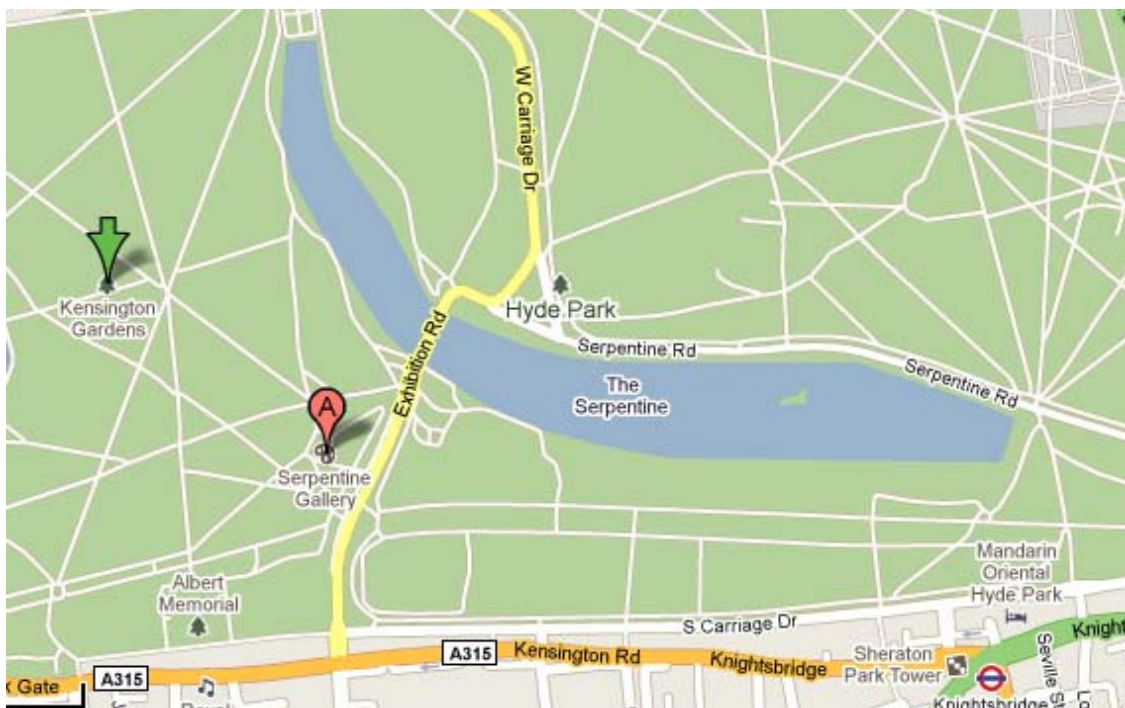
- * サーペントイン・パビリオン
- * フローズン・ヨーグルトスタンド SNOG
- * シュツツツガルド市内のブックショップ

RECENT OPEN VENUES

1. サーペントイン・パビリオン

1. クライアント: サーペントイン・ギャラリー
2. ビジネスタイプ: カフェ
3. オープン: 2010 年7月ー9 月
4. 所在地: ハイドパーク
5. 建築設計: ジャン・ヌーベル
6. 構造設計: ARUP

毎年有名建築家を招待して夏季3ヶ月の期間限定で建てられるパビリオン。オーナーはサーペントイン・ギャラリーでパビリオンのすぐ隣にあり、ギャラリーを訪れた後にパビリオンのカフェで一息つける。2000 年にスタートしたこの限定企画だがすっかりロンドンの夏の風物詩となった。毎年どの建築家が設計するか、どんなデザインになるか、デザインに対しての批評など必ず話題になる。



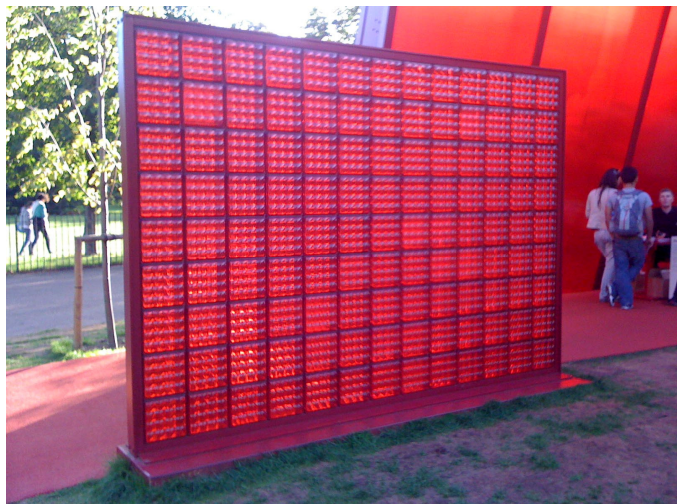
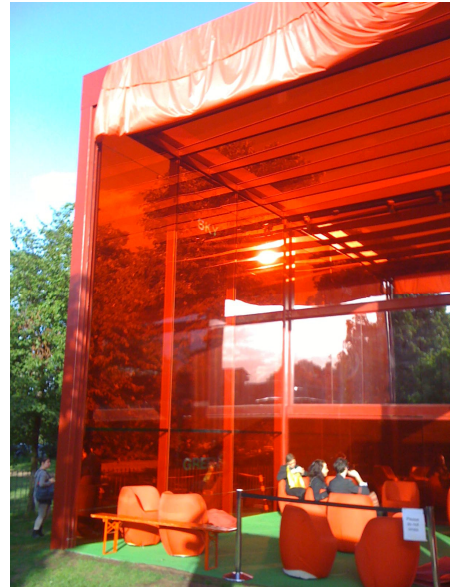
Location Map

LONDON REPORT
AUG 2010

今年のジャン・ヌーベルによるサーペンタイン・パビリオンは、3ヶ月の期間限定の建物であることを考慮した構造、素材選びであることが伺える遊び心かつクレバーな空間だったのではないだろうか。個人的にはここ数年の中では1番印象に残った。



LONDON REPORT AUG 2010

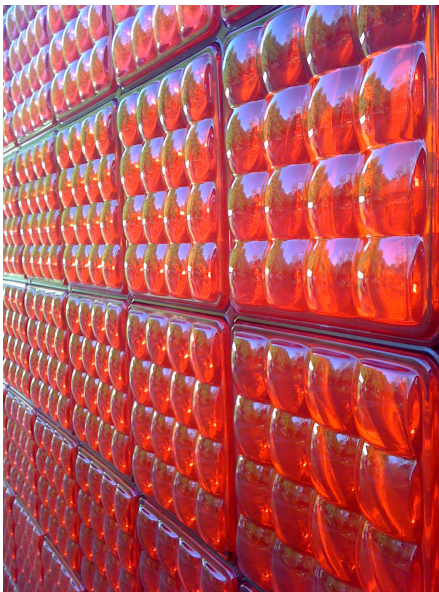


LONDON REPORT
AUG 2010

赤のテント屋根は天候に合わせて天井が開閉できるようになっている。ストラクチャも家具もすべて赤。インタビューでジャン・ヌーベルは「**ロンドンといえばダブルデッカーと電話ボックス（最近ではめったに見かけないが）で、そこから赤を使おうと思い立ったとのこと。**」わかりやすい。



ディテールも面白い。壁の1面はなぜかミラー(左上)。バーカウンターのスツールの足掛けはなぜか自転車のサドル(中央上)。

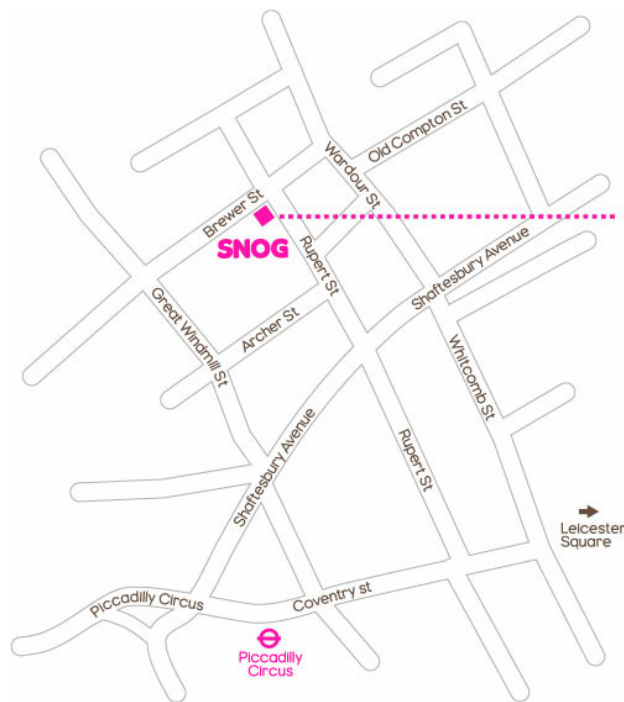


赤い建物は実はいろいろな素材から成っている。フィーチャーウォールはガラスブロック、外壁はポリカーボネートだったりアルミパネルだったり。床は屋内運動場に用いられるラバー床。

LONDON REPORT
AUG 2010

2. SNOG: フローズンヨーグルトスタンド

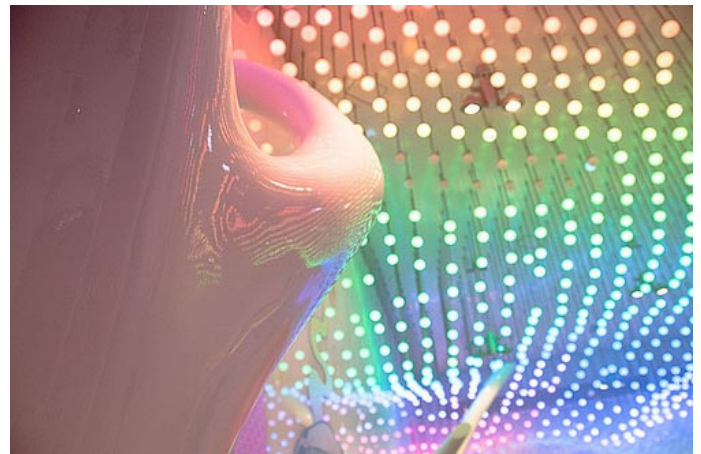
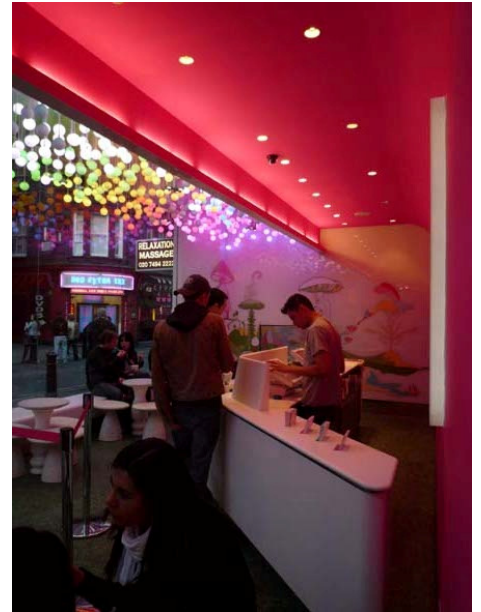
一昨年にサウスケンジントンに出現し、徐々に増えてきたのがアメリカ西海岸発のフローズン・ヨーグルトスタンド。SNOG は中でも店舗のデザインがお洒落で人気がある。カラフルな照明とショッキングピンクの壁、真っ白な家具と店舗は小さいがまず見逃さない。



1. クライアント: SNOG
2. ビジネスタイプ: フローズン・ヨーグルトスタンド
3. オープン: 2009年3月 (Soho 店)、2010年6月 (Covent Garden 店)
4. 所在地: Snog Soho, 9 Brewer Street, London W1F 0RG



LONDON REPORT AUG 2010



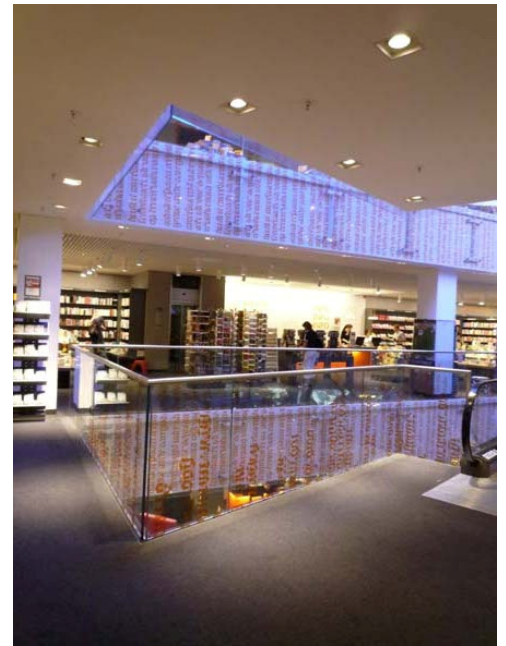
LONDON REPORT
AUG 2010

3. シュトゥットガルト市内、ブックショップ

1. クライアント: Hugendubel
2. ビジネスタイプ: ブックショップ
3. 所在地: Die Welt der Bücher in der Königstraße, Königstraße 5, 70173 Stuttgart
4. 建物概要: 3 階建て、1 フロア約 1,000 m²



今年の初夏に出張で訪れたシュトゥットガルトだが、市内中心部のショッピングストリート、ケーニツ通りを歩いた際に洋服を買うような感覚で入ってしまうようなデザインの本屋を見つけたので紹介したい。



2 階はフィクションがメイン。大通りに面した側にはカフェが入っていて、店内の本を持って行って読むのも自由。

LONDON REPORT
AUG 2010



フロアの中央がエスカレータで吹き抜けの天井は光膜天井になっていて開放感がある。とても本屋とは思えない。

1 階はシュツツガルドの観光本やデザイナー系のおみやげグッズが半分くらい占めている。グラフィックが床やガラスの手すりに散りばめられてあり、視覚のアクセントになっている。シンプルな格子天井やミニマルな色使いに対してサインや照明がよく考えて設計されている。

